

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	名阪運輸(株)愛西物流センター第1倉庫	階数	地下0階地上1階
建設地	愛知県愛西市西保町城之内59番1ほか18筆	構造	S造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	16人
気候区分	6地域	年間使用時間	1,920時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2024年1月 予定	評価の実施日	2023年3月4日
敷地面積	9,257 m <sup>2</sup>	作成者	瀬古 好美
建築面積	2,094 m <sup>2</sup>	確認日	2023年3月4日
延床面積	2,092 m <sup>2</sup>	確認者	瀬古 好美

### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 1.0** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

②建築物の取組み #DIV/0!

③上記+②以外の #DIV/0!

④上記+ #DIV/0!

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** **Qのスコア = 2.8**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.6

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.2

**LR 環境負荷低減性** **LRのスコア = 3.2**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

### 3 重点項目

①地球温暖化への配慮	N.A	③敷地内の緑化	1.0	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	9.6 %
				建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
②資源の有効活用	3.5	④地域材の活用	1.0	<外装材に使用した地域性のある材料>	なし
				<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>	なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
		評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>										<b>2.8</b>
<b>Q1 室内環境</b>										
<b>1 音環境</b>										
1.1	室内騒音レベル			3.0	-	-	-	-	-	-
1.2	遮音			-	-	-	-	-	-	-
1	開口部遮音性能			-	-	-	-	-	-	-
2	界壁遮音性能			-	-	-	-	3.0	-	-
3	界床遮音性能(軽量衝撃源)			-	-	-	-	3.0	-	-
4	界床遮音性能(重量衝撃源)			-	-	-	-	3.0	-	-
1.3	吸音			-	-	-	-	3.0	-	-
<b>2 温熱環境</b>										
2.1	室温制御			-	-	-	-	-	-	-
1	室温			3.0	-	-	-	3.0	-	-
2	外皮性能			3.0	-	-	-	3.0	-	-
3	ゾーン別制御性			3.0	-	-	-	-	-	-
2.2	湿度制御			3.0	-	-	-	3.0	-	-
2.3	空調方式			3.0	-	-	-	3.0	-	-
<b>3 光・視環境</b>										
3.1	昼光利用			-	-	-	-	-	-	-
1	昼光率			3.0	-	-	-	3.0	-	-
2	方位別開口			-	-	-	-	-	-	-
3	昼光利用設備			3.0	-	-	-	3.0	-	-
3.2	グレア対策			-	-	-	-	-	-	-
1	昼光制御			5.0	-	-	-	3.0	-	-
3.3	照度			3.0	-	-	-	3.0	-	-
3.4	照明制御			3.0	-	-	-	3.0	-	-
<b>4 空気質環境</b>										
4.1	発生源対策			-	-	-	-	-	-	-
1	化学汚染物質			3.0	-	-	-	3.0	-	-
4.2	換気			-	-	-	-	-	-	-
1	換気量			3.0	-	-	-	3.0	-	-
2	自然換気性能			3.0	-	-	-	3.0	-	-
3	取り入れ外気への配慮			3.0	-	-	-	3.0	-	-
4.3	運用管理			-	-	-	-	-	-	-
1	CO <sub>2</sub> の監視			3.0	-	-	-	-	-	-
2	喫煙の制御			3.0	-	-	-	-	-	-
<b>Q2 サービス性能</b>						0.43				<b>3.6</b>
<b>1 機能性</b>										
1.1	機能性・使いやすさ			-	-	-	-	-	-	-
1	広さ・収納性			3.0	-	-	-	3.0	-	-
2	高度情報通信設備対応			3.0	-	-	-	3.0	-	-
3	バリアフリー計画		独自	3.0	-	-	-	-	-	-
1.2	心理性・快適性			-	-	-	-	-	-	-
1	広さ感・景観 (天井高)			3.0	-	-	-	3.0	-	-
2	リフレッシュスペース			3.0	-	-	-	-	-	-
3	内装計画			3.0	-	-	-	-	-	-
1.3	維持管理			-	-	-	-	-	-	-
1	維持管理に配慮した設計			3.0	-	-	-	-	-	-
2	維持管理用機能の確保			-	-	-	-	-	-	-
<b>2 耐用性・信頼性</b>										
2.1	耐震・免震・制震・制振			0.5	3.0	0.52	-	-	-	3.0
1	耐震性(建物のこわれにくさ)			0.4	3.0	0.48	-	-	-	-
2	免震・制震・制振性能			3.0	3.0	0.80	-	-	-	-
2.2	部品・部材の耐用年数			0.3	3.3	0.33	-	-	-	-
1	躯体材料の耐用年数			-	3.0	0.25	-	-	-	-
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔		②	-	3.0	0.25	-	-	-	-
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔			-	5.0	0.10	-	-	-	-
4	空調換気ダクトの更新必要間隔			-	-	-	-	-	-	-
5	空調・給排水配管の更新必要間隔			-	4.0	0.17	-	-	-	-
6	主要設備機器の更新必要間隔			-	3.0	0.25	-	-	-	-
2.4	信頼性			0.1	2.4	0.19	-	-	-	-
1	空調・換気設備			3.0	3.0	0.20	-	-	-	-
2	給排水・衛生設備			3.0	1.0	0.20	-	-	-	-
3	電気設備			3.0	3.0	0.20	-	-	-	-
4	機械・配管支持方法			3.0	3.0	0.20	-	-	-	-
5	通信・情報設備			3.0	2.0	0.20	-	-	-	-

外壁下地プラスターボード及び鉄骨胴縁現し

配管用炭素鋼管(白)(消火)

3 対応性・更新性				0.4	4.3	0.48	-	-	-	4.3
3.1 空間のゆとり				0.3	4.6	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり		高さ8.00m	-	5.0	0.60	-	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ		壁長さ比率0.14	3.0	4.0	0.40	-	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	5.0	0.31	-	3.0	-	
3.3 設備の更新性				0.3	3.5	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性	②		-	-	-	-	-	-	
2	給排水管の更新性			3.0	3.0	0.20	-	-	-	
3	電気配線の更新性			3.0	3.0	0.13	-	-	-	
4	通信配線の更新性			3.0	3.0	0.13	-	-	-	
5	設備機器の更新性		建物機能を維持したまま更新・修繕可能	3.0	4.0	0.27	-	-	-	
6	バックアップスペースの確保		消火ポンプ所は屋外計画	3.0	4.0	0.27	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.57	-	-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出			独自③		1.0	0.30	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④		3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.5	0.30	-	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④		3.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上					2.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	-	3.2
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	-	3.0
1 建物外皮の熱負荷抑制				3.0	-	-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用				3.0	-	-	-	-	-	-
3 設備システムの高効率化			BEI=	3.0	-	-	-	-	-	-
4 効率的運用				1.0	3.0	1.00	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1	モニタリング			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2	運用管理体制			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	-	
4.1	モニタリング			-	3.0	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制			-	3.0	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	-	3.4
1 水資源保護				0.1	2.2	0.15	-	-	-	2.2
1.1 節水				3.0	1.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.4	0.63	-	-	-	3.4
2.1 材料使用量の削減			②		2.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			独自		3.0	0.25	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用					3.0	0.21	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用					3.0	0.21	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材					3.0	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自		3.0	0.25	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	4.3	0.22	-	-	-	4.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	5.0	0.68	-	-	-	
1	消火剤			-	-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		発泡剤を用いた断熱材を使用していない	-	5.0	1.00	-	-	-	
3	冷媒			3.0	-	-	-	-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮			①	#DIV/0!	-	-	-	-	-	-
2 地域環境への配慮				0.5	3.4	0.50	-	-	-	3.4
2.1 大気汚染防止					5.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善					3.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	2.6	0.25	-	-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.33	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制			-	-	-	-	-	-	
3	交通負荷抑制	独自		-	3.0	0.33	-	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制			-	2.0	0.33	-	-	-	
3 周辺環境への配慮				0.5	3.2	0.50	-	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	騒音	独自		-	3.0	1.00	-	-	-	
2	振動	独自		-	-	-	-	-	-	
3	悪臭			-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	風害の抑制			-	3.0	0.70	-	-	-	
2	砂塵の抑制			-	1.0	-	-	-	-	
3	日照障害の抑制			-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制				0.2	4.4	0.20	-	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		専門家による検討体制のほか過半を満たしている	-	5.0	0.70	-	-	-	
2	屋光の建物外壁(による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア	
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>N. A</b>	
LR3-1	地球温暖化への配慮	0.0	0.00		
<b>② 資源の有効活用</b>					<b>3.5</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.22		
Q2-3	対応性・更新性	4.3	0.21		
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.4	0.19		
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>1.0</b>	
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17	外構緑化:9.6%/建物緑化:0%	
<b>④ 地域材の活用</b>		(評価ポイント)		<b>1.0</b>	
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし	
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし	

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	地球環境負荷の低減に取り組んだ。
Q1 室内環境	対象外。
Q2 サービス性能	ゆとりある空間とし、フレキシビリティ性の向上に配慮した。 耐震性能は建築基準法に定められた耐震性を有するものとした。
Q3 室外環境(敷地内)	建物外部には視線を遮るような樹木を配置しない等、防犯性に配慮した。 緑地水平投影面積率3.8%を確保し、舗装面積率を36.6%とした。
LR1 エネルギー	高効率な照明器具を採用し、エネルギーの削減を図った。
LR2 資源・マテリアル	鉄骨現し部の仕上を塗装とする等、部材の再利用可能性の向上に配慮した。
LR3 敷地外環境	燃焼機器を使用せず、大気汚染防止に取り組んだ。
その他	特になし。